

熟練教師と若手教師の体育授業における

指導技術の特徴についての検討

真屋葉月（群馬大学）

1. 目的

本研究では、小学校 5 年生のバスケットボールの授業を対象に、熟練教師と若手教師のクラスでの授業を取り上げ、体育授業における指導技術の特徴について詳細に検討することを目的とした。

2. 研究方法

2.1 期日と対象

2019 年 1 月 16 日～2 月 14 日にかけて、群馬県 F 小学校 5 年 A 組 31 名(男子 16 名、女子 15 名)、B 組 30 名(男子 15 名、女子 15 名)を対象に全 8 時間を実施した。授業を担当したのは、A 組が熟練教師、B 組が若手教師であった。

2.2 分析方法

- 1) 授業場面:高橋ほか(1994)による体育授業場面の期間記録法を用いて観察・記録した。
- 2) 教師のフィードバック:深見ほか(2015)の教師の相互作用行動観察カテゴリーを用いて分析した。
- 3) 子どもの受けとめかた:毎授業後に受講したすべての子どもに質問紙調査を行い、①助言の有無、②助言の内容、③助言の有効性について回答させた。
- 4) 各教師の授業内容の比較:授業映像から 2 人の教師による指導性の発揮の違いを検討するために運動学習場面を大きく 3 つに、学習指導場面を大きく 2 つに分類し、比較した。

3. 結果及び考察

3.1 各教師の授業場面及びフィードバックからみた特徴

- 1) 授業場面:熟練教師は 4 つの授業場面すべてにおいて、若手教師は学習指導場面を除いた 3 つの授業場面について、子どもに評価される「よい体育授業」の条件の値(深見ほか, 2000)を満たしていた。
- 2) フィードバック:熟練教師と若手教師とともに、ほとんどの授業で 100 回以上のフィードバックを

し、特に技能的なフィードバックを多く行っていた。しかし、若手教師は熟練教師より行動的フィードバックが多かった。

3) 子どもの受けとめかた:「教師からの助言を受けた」割合をみると、熟練教師が 58.4%、若手教師が 30.9% であった。そのうち、子どもに「役に立つ助言」として受けとめられたのはどちらも技能的・矯正的フィードバックであった。一方、行動的フィードバックは「役に立つ助言」として受けとめられなかった。

3.2 各教師の運動学習場面と学習指導場面における指導方法の比較からみた特徴

- 1) 運動学習場面:熟練教師はフィードバックが子どもに届くように立ち位置を工夫したり、積極的な巡視をしていた。また、効果的に用具を活用していた。一方、若手教師はフィードバックの際、子どもの名前を呼ばなかったり、内容が分かりにくく、用具も効果的に活用できていなかった。
- 2) 学習指導場面:熟練教師はめあてを立てる際に子どもの意見を参考にし、単元の見通しをもっていた。板書やルール、意識するポイントは子どもたちに分かりやすいものであり、技能向上を図るものとなっていた。一方、若手教師はその日の授業を優先するような傾向があった。そのため、目の前の子どもよりも計画通りに進めようとしていた。

4. 結論

以上の特徴から、よい体育授業を実践するためには、指導経験を重ねるだけでなく、重ねていく過程で教師自身も学び続けていく姿勢が重要だといえる。

5. 参考文献

深見英一郎・田中祐一郎・岡澤祥訓(2015) 体育授業における熟練教師と新任教師の指導技術の比較研究. スポーツ教育学研究 34(2): 1-16.